

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270101761		
法人名	医療法人 社団 春秋会		
事業所名	二本松養生所		
所在地	長崎県長崎市戸町2丁目177番地28		
自己評価作成日	令和6年11月21日	外部評価結果確定日	令和7年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.syun-iyu-kai.or.jp/department/rehabili/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和7年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが5類に移行した後は、地域住民とのコミュニケーションを図り密接に連携を行っている。また、入居者様には毎月の行事等を行う事により、入居者様と職員との信頼関係構築に努めている。ご家族様には、毎月の月末報告書によって入居者様の状況報告している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でも地域との付き合いを途絶えさせず、地域の行事に参加し、自治会との付き合いを密にしており、地域のなかで事業所の存在がしっかりと受け入れられている。職員研修がとても充実しており、法人全体の研修、事業所での研修と多岐にわたり学べるような仕組みが作られ、内容についても受け身にならないよう、職員それぞれに発表の機会を持ってもらうなどの工夫がされている。入居者様の自己実現を大切にしており、職員が工夫しながら、入居者様が外出を含め日常生活のなかでもできる限り制限のない生活をできるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をフロアの見やすい場所に掲げている。毎朝の朝礼で唱和行っている。	法人理念と事業所の特性を考慮した事業所の理念のいずれも大切にしながら日々の支援を行なっている。法人として入職時の研修体制が整えられており、新入職員にはその際に理念についての説明が行われているが、さらに事業所として理念の実践のために必要なこととして、職員が入居者についての理解を深めることがまずは大切と考え、勉強会を定期的実施し、よりよい形での支援が行えるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(市民大清掃、おくんち等)に積極的に参加している。事業所の定期新聞を自治会へ渡している。又、自治会の新聞やお知らせを事業所に置いている。	自治会の行事には積極的に参加するようにしており、自治会長が何かあれば訪ねてきてくれるほど付き合いを大切にしている。事業所に月に2回パンの移動販売に来てもらっているが、地域の方にもアナウンスして、一緒に買い物を楽しんでおり、そこで顔見知りと再会するなど、その後の入居者様の付き合いにもつながっている。デイサービスと一緒に、近隣の保育園の子ども達との交流の機会もあり、子ども達の考えてくれたイベントを楽しむ機会も持てている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市や県主催の講義や、グループホーム連絡協議会の勉強会に出席し、自己研鑽に努めている。勉強会の内容を全職員に周知出来るよう心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族(毎回1家族)、地域住民にサービス状況等を報告し、意見交換を行っている。又、職員による勉強会も開催し、職員のスキルアップと住民への色々な開示を実施している。	運営推進会議には、市役所担当者、入居者ご家族様、自治会長などが参加しており、毎回会議の際には、地域の方々に事業所のことを理解してもらうことを目的として、職員が持ち回りで認知症や虐待など地域密着型サービスについての何か一つのテーマについて勉強会を行っている。また、職員が勉強会の内容を検討することで、職員自身が理解を深めるために役立っている。	運営推進会議の議事録は、参加したご家族様だけに送付しているとのことである。運営推進会議の議事録に目を通すことで、広報誌に載っている行事等だけでなく、事業所の運営のことも知ることができ、より事業所の理解を深めてもらうことが可能となる。広報誌や請求書等の送付の際に運営推進会議の議事録も同封されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への書類提出時などを利用。連絡や質問を実施し、常に意見交換、質問が出来る様に努めている。	市の担当者と関係を築くために、運営推進会議に来てもらうだけではなく、あえて電話をして話をする機会を作ったり、事前に約束を取り付けて書類提出に行くなど努力している。また、市などが開催する職場外研修にも積極的に参加しており、地域の実情の把握に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないように、全職員が心掛けている。居室は日中夜共に開錠している。	法人としてリスクマネジメント委員会を設置しており、事業所としても虐待防止委員会を立ち上げている。委員会より研修の資料が提供されたら、各職員は資料を確認後サインをすることになっており、漏れがないよう徹底している。入居者様ができるだけ制限のない生活を送れるよう心がけており、制限が必要な状況になっても、ミーティングで話し合うことでできる限り違う方法を模索し、家族に説明して了承をもらい、職員が目配することで、生活してきた環境に近い形で生活することができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月担当職員を決め、虐待防止法について勉強会を行い学ぶ機会を設けている。入居者様への声掛け、対応時に職員間で注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や県主催の講義や、グループホーム連絡協議会の勉強会に出席し、自己研鑽を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前は、契約書、重要事項説明書を用いて説明を行い、入所後はご家族様の来所の際に、直近の状況報告を行い、会話がしやすい環境づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から質問があった場合、直ぐに回答できる場合は、その場で回答と説明を行い、今後の対応策まで提示している。その場で回答できない場合は、一旦質問をお預かりし、後日ご家族様に電話等で回答を実施している。	ご家族様には毎月末に報告の書類を送付しており、ご家族様はそれを確認したうえで、何か意見や要望があれば、面会の際や電話やメール等都合の良い方法で職員に直接言ってもらえることが多い。年2回家族会を開催し、法人にて年1回満足度調査を行っており、家族が施設に対して、意見や要望を言える機会が設けられていると。また、ご家族様より意見があったときは、要望に応えるためにできる限りの対応をして、ご家族様に理解をしてもらうよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングの際に、その一週間前に職員に課題を提出して貰い、優先順位を検討し解決策を提案し実行している。また、全員提出の月を設けたり、無記名での提出を行う事で、職員が意見を出しやすい環境づくりを心掛けている。	普段より職員は施設長や主任に直接意見を言えるような雰囲気があり、ミーティングでは議題に挙げてほしい意見などを毎回職員から集めており、意見を聞くための機会を持つようにしている。個人面談は必ず年1回行うようにしており、異動してきた職員については定期的に面談を行い、ミーティングでは言いにくいことや勤務のことなど話を聞くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員には資格取得を促している。時間外労働が発生した場合は、超過勤務手当や他の日に調整を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修や勉強会への参加を促し自己研鑽を図っている。 法人内は教育委員会がある為、研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の定例会や理事會に同業者との交流の場を設けている。 他グループホームへ赴き、実際の環境や様式など意見交換の場を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議や家族からの定期的な希望は職員間で共有しミーティングを開催し問題解決に取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に担当者会議を開催し、家族等からのニーズを引き出し職員間で共有し対応策を家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様のライフビューを担当者会議以外でも傾聴し必要なサービスを提供出来るように反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には入居者担当職員が、定期的に出来る活動や興味のある事を引き出す努力を行っている。定期的に振り返りを行う事により、サービス向上に努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の報告書の提示や年に数回、家族会を実施する事で入居者の疎外感や開かれた事業所作りに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に友人や近所の人々が来られた時はご本人様の居室で面会やお話してもらうように努めている。	入居時や入居後に入居者様と話をすることで、馴染みの人や場についての話を把握するよう努めており、誰かに会いたいという話があればご家族様に伝えたり、ご家族様との相談のうえで、昔の職場や住んでいた家などには外出時にできる範囲で寄ったりして、入居者様に喜んでもらえるよう支援している。また、事業所にご家族様以外にも昔の知り合いが訪ねてくる入居者様も多く、これまで大切にしてきた関係が途切れることなく続いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事等は全員参加出来るよう工夫し共同作業等を通じて入居者間の関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くならた方のご家族に訪問や近状況を把握し、要望がある際に対応できる状況に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議でライフビューを聞き取り、認知症の進行で困難な場合はご家族要望聞きその方の合った暮らし作りを実施している。	入居時に今までの生活歴や利用者様が好きな事、趣味などについて聞き取り、出来る限り楽しい生活が送れる様に取り組まれている。例えば、ノンアルコールビールを嗜む、競艇に行きたいと希望された時は計画を立ててみる、油絵が好きな利用者様と美術館へ出かけるなど、今までの生活でしてきた事が続けられる様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当者会議時キーパーソン以外の家族よりライフビューを聞き情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・昼・夕のバイタル測定行いケアパレット入力し、日中の活動内容も入力している。申し送りや受診記録参照して現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所時や郵送(その後電話)にてケアプランの説明し、要望を聞いたり、書いてもらったりし介護計画書に反映している。1回/月に3名の見直しをとモニタリングを職員全員で実施。	介護計画は、各職員が受け持ちをしている。自己実現のために現状維持ではなく改善に向けた目標を立案し取り組んでいる。月1回開催される「職員ミーティング」を活用し、入居者様が抱えている課題について話し合い、より良く生活が出来るためのケアに繋がっている。週1回、医療連携シートで訪問看護へ情報を共有し、必要なケアについては、ケアプランへ反映させている。ご家族様へは、毎月報告書で現在の様子を伝えている。ご家族様からの要望は、面会時、年2回開催される家族会、年1回の満足度アンケートなどで聞き取りを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の過ごし方等パレットに入力。また業務日誌にも記入し職員間での情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況によってのニーズに対して法人内の医療関係へ依頼し、機能低下予防にを務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の好物や日用品を買い物へ出向いたり、ドライブに出かけ楽しめるように支援している。また、ご家族様との買物や食事に行ける環境作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医が当法人に変更かを入居時に伺っている。必要な医療機関が出たらご家族に相談し、適切な医療の支援を行う。	かかりつけ医の変更は強制ではないが、急変時の対応を考慮し、同法人の医療機関を選択される方が多い。他科受診は、職員が付き添い通院介助を行っている。法人内の訪問看護師が週1回訪問、主治医は月2回往診される。週1回、医療連携シートを活用し、食事摂取量、排泄状況をなど報告し、異常時の早期対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護が週1回来所し、状況報告を行っている。 夜間帯の急変時等も24時間電話対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はサマリーを作成し、情報共有を実施。入院先に出向いた際は、看護師や、連携されている場所に行き、退院のメドや現状確認を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化された時の主旨説明を行っている。同意を得た上で終末期の対応や看取り指針に基づく対応に努めており、半年に1回程度で意向の確認を行っている。	ACP(終末期の医療ケアの希望)について入居時に入居者様、ご家族様より聞き取りを行う。その後も年に1回、意向の確認を行っている。重度化した時は、主治医の指示を受け、病院へ入院となる。看取りの対応はしていない。訪問看護は24時間電話対応が可能であり、夜間帯は、訪問看護へ連絡し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人や各事業所ごとに勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	春と秋の2回避難訓練(昼間・夜間交互に実施)を実施。自治会長や民生員の参加を毎回依頼している。	消防計画・防災計画が法人として作成している。年2回、消防署立ち合いのもと、昼間と夜間を想定し避難訓練を実施している。各居室のカーテン、壁紙、扉は防災である。災害時、外部スピーカーで近隣住民へ知らせる事ができる。また避難訓練時は、民生委員や自治会長が参加しており、地域との協力体制が出来ている。備蓄品は米、水、乾麺、レトルトカレー、缶詰など3日分の食料品やオムツ、マスク、手袋などの衛生用品が準備されている。	避難訓練の記録は整備され、運営推進会議の中で訓練の検証を行っている。訓練の検証については、運営推進会議の議事録とは別に整備し、次の計画に今回の検証をいかせることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格等を考慮し言葉かけを行うよう心掛けている。	今年より毎月職員ミーティングの中で「認知症」について理解を深める勉強会を実施している。認知症の理解を深める事で、BPSDの原因や対策を考える事ができる。職員の都合で、入居者様の生活が制限されない様に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や行動から思いをくみ取り、職員間で情報を共有し対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に合う対応を心掛けているが、直ぐに対応できないこともあり。その際は理由を説明する等して対応。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類を選んでもらったり、職員が準備した際は確認をしてもらったりしている。モーニングケア時には、化粧水なども入所以前からの習慣を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	視覚的にも楽しめるよう盛り付けを工夫している。感染症予防もあり、一緒に準備する事は殆んどない。	ごはん以外は、外部委託である。食事形態は入居者様の嚥下状態に応じて、ムース食・ミキサー食など対応している。「食事」の楽しみが持てる様に、入居者様の嗜好品を提供する事がある。晩酌を希望される方はノンアルコールビールを、他にもパン、焼き魚などメニューにはない食べ物を可能な限り提供している。誕生月は誕生ケーキ、正月は数の子、お寿司など変化をつけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託のため、栄養バランスの取れた食事を提供する事が出来ている。水分チェック表に食事量・飲水量を記入しケアパレットに入力。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。週1回の歯科往診にて、必要に応じて相談しながら口腔内衛生保持に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、事前にトイレ誘導出来るよう排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表を活用しトイレ誘導を行っている。意思表示が難しい場合は、時間を見ながら声かけを行い、トイレやポータブルトイレへの誘導を行っている。1人でトイレへ行き排泄する入居者様もいる。夜間帯は、転倒の恐れがある入居者様は、足元センサーを設置し、立位、移動介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を日々確認し、便形状スケールを活用する事により職員間で情報を共有し、下剤調整おこなっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調を考慮しながら実施。ご希望有れば午後からの入浴もおこなっている。	週2回入浴支援を行っている。現在日中に入浴時間を設けており、入居者様より不満の声は聞かれていない。異性介助を行う場合は、ご家族様より同意を得て行っている。以前、入浴を嫌がる入居者様がいた時は、嫌がる原因をご家族様と検討し対応した事がある。今までの生活習慣や性格等を考慮し、入浴を楽しんで貰うように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、入居者様の自由に居室やフロアで過ごしてもらっている。フロアに居る時に表情や態度から疲れていると感じたら、居室での臥床を促している。居室だけにならないように、体操や水分補給などで声掛けしフロアへ誘導する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜間帯での配薬の際に効能書きを確認。目的や副作用を把握しながらの実施を心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の役割分担を日々実施している。談話の中から何がしたいのか何が楽しいのかを分析し、気分転換の声掛けを実施している。不穏時や天気の良い時には急遽ドライブの対応を実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天候に左右されるが、目の前の公園に散歩に出かけている。ご家族の協力のもと、外食や外泊も実施している	職員の都合で入居者様の行動や楽しみが制限されない様に、活動の機会を設けている。紅葉の時期に、雲仙仁田峠ヘドライブへ、夏は三和方面へ行き、外でスイカを食べたり、桃カステラや式見かまぼこを買いに行ったりと入居者様が楽しいと思う気持ちを大切にしている。ご家族様の協力を得て、外食や外泊をされる入居者様もいる。また、近くの公園を散歩し気分転換を図ったりしている。昨年より事業所へパンの移動販売が来ている。地域住民も買い物へ来ており、偶然、昔のなじみの人と会えたと喜びの声もあった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お子遣いを廃止し、事業所立て替えをしている。毎月の請求書と一緒に領収書も添えて確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の手紙や葉書を渡し、本人が手紙などの郵送を希望する場合は郵送している。携帯電話の管理が出来る方は、各居室で携帯を自由に使っている。そうでない方は、職員が管理し、電話を取り次いたり、施設の電話からかけれるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはテレビの音や洗濯機や包丁を使用する際の生活音があふれている。西日が強い際にはカーテンなどで対応している。1ヶ月に1回行事を実施し、そこで装飾をし季節感を出している。	玄関を入ると、フロア内の大きな窓から外の景色が眺められる様になっており、季節の移り変わりを楽しむ事ができる。フロアや廊下は、車椅子、歩行器などが十分に通れる広さがある。フロア内の台所からは、入居者様の様子が見られる様になっている。フロア内に加湿器が2つ、空気清浄機が設置してある。室温湿度計があり、定期的にチェックしている。フロア内ではテレビを見たり、読書したり、思い思いに過ごされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファ、玄関前に長椅子を設置し、独りになれる空間作りを実施している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の協力のもと、テレビ、ソファ、机や椅子など、本人が快適に過ごせるように工夫している。本人や家族等の写真を飾っている。また、馴染みの物持って来て貰うように工夫している。	各居室には、ベッドとクローゼットが備え付けられている。入居者様が寂しくない様に、ご家族様に馴染みの物を持ってきてもらう様にしている。今までの生活の延長として過ごす事が出来る様に工夫している。居室内の清掃は、入居者様と一緒に掃除を毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室に表札等を設けており、自身で分かるようにしている。手すりを設置しているので、加介助にならないように手摺使用の声掛けを実施している。		